

プリンシパル・グローバル・インベスターズ

生保資産運用の強みを生かす

年金資金運用に定評があるプリンシパル・グローバル・インベスターズ(PGI)は、日本で事業を開始して約4年になる。順調に発展する同社の概要やこれからの活動について板垣均社長に写真に聞いた。板垣氏は「生保がどのような運用を行い、どのようなレポーティングを望んでいるのか経験を通して熟知している。生保会社出身の強みを生かして運用を提案したい」と強調した。



板垣均社長

点、日本ではPGIの1拠点として東京で活動している。

米国外の顧客が増加

PGIは総額約2324億米ドル(約19兆円、2010年12月末、1米ドル81・105円換算、以下同じ)の資産を運用し、米国の資産残高上位25の年金スポンサーのうち13スポンサー、全世界の資産残高上位25の年金スポンサーの運用に軸足を置く。15カ国で事業を展開し、PGIとして7拠点からスタートし、2006年に運用資産総額は2000億ドル(約16兆2000億円)に達した。その間、自前の運用戦略に加え、戦略特化型運用

日本での発展とこれからの活動を聞く

とソプリン・ウェルズ・ファンドのうち10基金から受託を受けている。資産クラスは債券が全体の54%、株式が31%、不動産が15%を占め、顧客タイプは、米国非課税顧客(DC・DB)が60%、米国課税顧客が28%、米国外の顧客が12%の構成だが、特に米国以外の顧客が増加している。

会社の買収により幅広い運用戦略を提供するブティック・モデルに移行した。同戦略に沿って、自前のブティック部門を7部門、買収したブティック会社を7社、合弁会社1社を有し、顧客のニーズに合わせて運用戦略を提供している。そうしたマルチ・ブティック戦略には、グローバルに展開可能な大企業としての強みとユニークで独立した運用ブティックの強みを兼

G以外の保険会社顧客20社の資産43億米ドル(約3500億円)を含む)。プリンシパル生保、同社以外の生保、損保、再保険などを顧客に抱え、コア運用、単独運用、マンデート(企業が株式発行で資金調達する際の業務受託)の実績がある。また、保険会社資産向けに、リスク調整後の税引き後利回り、あるいはトータル・リターンを最大化するための投資プロセス、運用報告や経理サポ

ス、地域、業種とクレジットの分散、ALM戦略とALM管理を挙げる。運用戦略は、リスクを管理しながら業種、地域、資産タイプや個々の貸し出し別にポートフォリオ管理を行い、保険会社の負債に対応した管理を行う。規律と流動性に加え、証券などの運用資産を償還まで保有することができ、保険会社など規制業種でも資産の品質と分散要件に応じた投資を行う。また、問題のあるセクター内の銘柄を厳重に監視し、全保有銘柄を積極的に管理することを心掛けている。

板垣氏は「国内年金向けファンドや、得意分野を生かして大手投資信託会社からの運用の再委託などのサービスを今後の柱にしたい」と話す。

今こそ分散投資が必要

震災後の投資環境について板垣氏は「保険会社の運用(収益性、安全性、公共性、換金性)は円建て、国内発行の割合が高いが、安全性を求めるときには分散投資が有効だ。PGIには日本では馴染みのない面白いアセットクラス(資産)がある。投資を通して日本の保険会社の分散投資の一助を担いたい」と強調する。

米国外からグローバル展開へ

き、保険年金資産運用を中心にビジネスを展開する総合金融機関。同グループは保険部門の割合が少なく、団体・退職年金(PFG)は1879年の設立で、米国アイオワ州デモインに本社を置

010年12月末、1米ドル81・105円換算、以下同じ)の資産を運用し、米国の資産残高上位25の年金スポンサーのうち13スポンサー、全世界の資産残高上位25の年金スポンサーの運用に軸足を置く。15カ国で事業を展開し、PGIとして7拠点からスタートし、2006年に運用資産総額は2000億ドル(約16兆2000億円)に達した。その間、自前の運用戦略に加え、戦略特化型運用

ね備える意味がある。資産運用の総額は666億米ドル。保険関連の資産運用の総額は666億米ドル(約5兆4000億円)、PF

ートなどのサービスを提供している。運用目的として、リスク調整リターンの最適化、強靱(きょうじん)で高品質なポートフォリオの管理維持、資産クラ

また、投資環境については「グローバルにはこの2、3年は景気がよく、米国や新興国などの株式や不動産もよい。一方、国内では長い成熟期間に入り、債務の拡大や増税の可能性などが心理面に与える影響もあり、その部分も投資環境の変化と考えている。財政が逼迫(ひっぱく)してくと円安の可能性があると円安の可能性があれば、株式は内需ではなく外需に期待が持てる。今後の投資は国内だけではなく海外の分散投資や通貨も含めていくことが大事だ。インカムの出るもので予定利率を上回るものに分散投資をする必要がある」と言う。

得意分野を生かしたサービスを今後の柱に

日本ではプリンシパル・グローバル・インベスターズ(株)として06年に設立。08年に企業年金基金、厚生年金基金から初受託。09年に国内年金受託残高が1000億円を超えた。昨年12月末現在で国内年金から7件(1228億円)、海外顧客から12件(2210億円)を受託している。

また、投資環境については「グローバルにはこの2、3年は景気がよく、米国や新興国などの株式や不動産もよい。一方、国内では長い成熟期間に入り、債務の拡大や増税の可能性などが心理面に与える影響もあり、その部分も投資環境の変化と考えている。財政が逼迫(ひっぱく)してくと円安の可能性があると円安の可能性があれば、株式は内需ではなく外需に期待が持てる。今後の投資は国内だけではなく海外の分散投資や通貨も含めていくことが大事だ。インカムの出るもので予定利率を上回るものに分散投資をする必要がある」と言う。